

1 はじめに

本年度から、本校の研修係を務めることとなった。務めるにあたりまず思ったことは、「職員の満足感を高め、より主体的に資質向上につなげていくために、研修の時間をどのように充実させるべきか。」ということである。

放課後は、年々多様化する保護者や子どものニーズに対応したり、それぞれが抱える校務を行ったりする貴重な時間である。それらの時間に年間を通して設定されている研修に対し、職員が少しでも満足感を感じることは、主体的に資質を向上させていく上で非常に重要なことだといえる。係が目的に応じた準備を行い、参加する職員に明確な目的意識をもたせることができれば、大きな成果を生み出すことができる。反面、取り扱い方を間違えれば、「ただこなす時間」になり、生み出される成果は少ない。

それらのことを踏まえ、今まで研修係を務める度に、自分なりに様々な工夫をしてきたつもりであったが、失敗や空回りばかりで、せっかく設定されている時間が充実したものとは言えない状況であった。振り返ってみて、具体的に考えられる失敗は、以下の3点である。

3つの失敗

- (1) 研修係から職員へのお願いばかりで、職員にとって必要感が生まれにくく、職員が主体的に研修に参加することができていなかったこと。
- (2) 研修組織が、研究テーマや仮説検証のための効率的な体制になっておらず、うまく機能していないために、職員が主体的に研修に参加することができていなかったこと。
- (3) 研修内容に関する環境を適切に整えることができておらず、せっかく研修した内容を反復したり確認したりすることができず、職員が主体的に資質向上を図ることができなかったこと。

「このままではいけない。何とかしなければ。」その思いを基に、4月から計画的に取り組んできたことを以下に述べる。

2 研究主題

**教師が、より主体的に資質を向上させることのできる職員研修の在り方
～3つの失敗の解決による職員研修の充実を通して～**

3 研究主題設定の理由

(1) 時代の動向及び本校の研究テーマから

学習指導要領の改訂を経て、GIGA スクール構想が提唱され約3年が経過し、世の中にも当たり前の言葉として認識される機会が増えた。ICT 機器の整備も着々と進んでいる。文部科学省の作成しているリーフレット「GIGA スクール構想の実現へ 1人1台は学びのスタンダード」の中には、「学びの活用」について紹介されている。大きく分けて3つ「すぐにでも どの教科でも 誰でも使える ICT」「1人1台を活用して、教科の学びを深める。教科の学びの本質に迫る。」「1人1台を活用して、教科の学びをつなぐ。社会課題の解決に生かす。」であり、それらを進めていく上で、まずは教職員が正しく機器やアプリケーションを扱う力を身に付けていくことが必要である。

そのために、本校は令和4年度から「児童の思考力・表現力を高める効果的な指導法の工夫～教師の ICT 活用力及び ICT 指導力の向上を目指して」という研究テーマを設定し、研究を進めることとなった。令和4年度の研究は特にサブタイトルに重点を置き、教員の資質を向上させることとなった。(サブタイトルの定義については「4 研究の仮説及び仮説検証のための具体策」のグラウンドデザインの中で説明する。)

これらの力の向上において、1時間ごとの研修の内容の充実は欠かせない要素である。

(2) 本校の職員の実態から

3-1(1)のように研究テーマが設定された経緯として、本校職員の不安も大きな理由として挙げら

れる。令和3年度末の研修に関するアンケートや研究推進委員会では、「GIGA スクール構想において、子どもたちに正しく ICT を指導することができるか不安。」「そもそもパソコンを授業で扱うことが苦手で抵抗がある。」「Google のアプリケーションとは何なのか。」等様々な不安点が出された。それらにしっかりと向き合った研修を行うことは、主体的な資質向上には欠かせない要素である。

4 研究の仮説及び仮説実証のための具体策

研修の時間の充実を図るためには、「1 はじめに」で紹介した3つの失敗に対して適切な策を講じる必要があると考えた。

そこで、それらの失敗の解決のための手立てを研究の仮説に位置付けることにした。

仮説1

教師のニーズを丁寧に把握し、研修計画に適切に位置付けることで、職員研修が充実し教師がより主体的に資質を向上させることができるのではないかと。

具体策

- (1) 教師のニーズをより明確化して把握するためのアンケート方法の工夫
- (2) ニーズの分類及び適切な計画

仮説2

本校の研究テーマや研究内容に合った研究組織等を適切に構築することで、職員研修が充実し、教師がより主体的に資質を向上させることができるのではないかと。

具体策

- (1) フローチャート式グラウンドデザインによる研究内容等の整理及び確認
- (2) 研修がより活性化するための研究組織の構築及び「本日の研修のトピック」
- (3) 実践や振り返りを全員で共有する場の設定

仮説3

研修内容に関する環境を適切に整え、研修した内容を反復したり、確認したりすることができるれば、職員研修が充実し、教師がより主体的に資質を向上させることができるのではないかと。

具体策

- (1) Google classroom を活用した研修内容の蓄積による復習及び共有
- (2) See-Smile を活用した、研修で確認した機器やアプリケーションの操作方法のマニュアル化
- (3) ICT 機器の整備及び一覧表の作成

5 研究の実際

(1) 仮説1について

ア 教師のニーズをより明確化して、把握するためのアンケート方法の工夫

研修では、職員にアンケートを実施し、職員のニーズを把握していく。それは、主体的に参加する研修づくりには欠かせない。私は、今までに「学年会で話し合っ意見を出してもらい、それらを集約する方法」をとってきた。

しかし、学年会は話し合うことが多く、じっくりと研修内容について考える時間の確保が難しい現状が見られた。個人の意見を集約することも考えたが、それでは考えが深まりにくい。お互いの考えを伝え合い、それぞれが様々なことを感じ、自分の考えをより深めたり、必要なことを